

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490100308		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター桑名いずみ		
所在地	三重県桑名市大字和泉622-1		
自己評価作成日	平成28年6月30日	評価結果市町提出日	平成28年8月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490100308-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 7 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「我が家」と同じ生活ができるように支援させて頂いております。巻きオムツ・眠剤の使用は基本的には行っておりません。ガーデニングセラピーやアニマルセラピーを積極的に取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桑名市の南、員弁川に近い昔からの家と新興住宅とが入り混じった地域である。設立2年と未だ新しい事業所で、経験豊かでやる気満々の管理者の下、地域に溶け込むべく模索・努力をしている。入居者一人ひとりの残存能力を維持・発揮してもらうため、「汚しても洗えばいい」の考えで、排泄の自立を促しているし、食事のお手伝いも、職員と見間違えるほど活躍される方もいる。畑の草取りもガーデニングセラピーと位置づけ、茄子・トマト・ピーマンと立派な収穫を上げている。利用者・職員も非常に穏やかで笑顔が多く、職員手づくりの昼食も全員完食だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠意・誇り・情熱」の会社の理念により、誠意をもって入居者様の日々の生活を支援させて頂き、ニチイ学館及びニチイケアセンター桑名いずみの職員として誇りを持ち、情熱を持ち業務にあたっています。	当初の理念より、法人理念の「誠意・誇り・情熱」を事業所理念として、唱和もしながら職員内に徹底させている。新人も多く、理念をはじめ教育をスタートし始めたばかりである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オレンジカフェなどの受け入れを行っており、これからも認知症カフェなどの受け入れも考えています。	オレンジカフェの受け入れや、認知症カフェを受け入れることも考えているが、いまひとつ事業所として満足を感じてない。	「24時間、誰かが居る事業所」という特長を活かし、いつでも誰でもふらっと寄れる居場所にするを考えており、将来的には子どもも来てくれるような場になることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	エンゼル薬局様による薬のお話し会には、一般の方の参加も募る予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様や家族様、市・包括支援センター・民生委員様や出入り業者様などの協力を得て運営状況の報告をさせて頂いております。	2ヶ月毎に開催しているが、事業所からの現状報告が多く、よりよい方向への模索をしている。行政や地域の皆さんの意見をいただける会議に向け努力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	諸事情があり、2年続いて「実地指導」があつたりして、市役所の方に色々とお聞きする事が出来るようになった。	事故報告や介護認定更新時等、機会ある毎に出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オートロックは使用しているが、帰宅願望や外に出たいと言われる場合などには、職員が付き添い外に出る工夫をしています。定期的に研修を開催している。	扉のオートロックは、「必要」を感じて取り付けたのではなく、建屋の構造の一つとして最初から取り付けられており、ない方がいいと感じている。法人として身体拘束に関するマニュアルは完備しているので、定期的に勉強している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員年間研修に位置付け研修を定期的に行っている。(本年どは7月)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修計画に組み込み定期的に勉強するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすく説明をする努力をしている。不明な点は後日でもいつでも聞いて頂けるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会への招待。家族様や入居者さんからの意見や要望を聞くようになっている。意見箱より開かれた事務所(在室時にはドアを開けている。)を続ける事により家族様が立ち寄りやすくなり、改まった席より、立ち話から要望や困りごとを聞ける事が多くなった。	テレビを見ているときの入居者同士の話の中から意見や要望を聞き出し、外出で「なばなの里」に行くことや、家族とはケアの話が多く聞かれる。管理者が事務室のドアを開けるようにして、家族が入りやすい体制をとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングを毎月1回実施している。そのときに意見や提案を行ってくれる。また申し送りノートを使用して自由な意見を出してもらう。	職員全員が積極的に申し送りノートに提案を記入しているし、月1回のミーティングも意見が多く、食事のメニューづくりや畑のこととか、レクリエーション関係の提案が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人個人の家庭環境やりがいいに合わせてシフトを組んでいる。小さな子供がいても、介護しなければならないスタッフでも常勤者として勤務できる体制を作って行きたいと思っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員年間研修計画によつての研修。または、現場の状況に応じた介護技術などは、その都度指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われる研修などの奨め。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は常に見守り、「トイレ」「居室」を覚えられるように、さりげなく誘導を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にどのように過ごして行って欲しいかを聞かせて頂いている。面会時にも会話を持つようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、ご本人様・家族様の希望を聞き、その内容を精査し支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来る家事」には積極的に参加してもらうよう職員が、声掛け・誘導を行っている。男性には、野菜作りなどの外仕事を無理のない程度に行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会も多く、緊急性の少ない病院受診や、車での外出などは家族様にご協力頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天気のよい日には、みんなで散歩をしたりして地域の風景を楽しんだりしている。	一部の友人の訪問や、家族との墓まいりや外出がある。地域的に入居していることを知られたくないという意識が強く、入居前の地域に近づくことを避けている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「一人ではない」という事を折りに触れて話している。誰かが困って居る時はみんなで助けあうように職員が話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	センター独自の広報や当社の社内紙などを郵送したり、運営推進委員会などの案内を送付したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時には職員に色んな事が話せる様子。管理者が食事を共にする際にも、色々な相談があったりするので、きちんと聞き対応している。	一人でテレビを見ている時や、夜の時間帯に話すことが多く、テレビの画面を見て、「あんならどうする？」等と話しかけたりする。聞き出したことは申し送りノートに書き、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	不明な点があったりする場合は、家族様訪問時に尋ねたりし、在宅時の生活パターンで生活出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	調理が好きな人には積極的に調理を行って頂いたり、運動量が少ない人には草抜きを手伝ってもらったりと個々で色々な事に参加してもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや申し送りノートを活用し、意見やアイデアを出してもらっている。家族様には面会時に話しやすい環境を整えている。	利用者・家族の意見や日常の業務日誌、介護記録、申し送りノート等を参考に介護計画作成担当者がまとめ、ケア会議で毎月チェックしている。見直しは6ヶ月毎である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会社専用のフォーマットの「介護記録」にその都度記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な状況が起こる中で、どうすることで入居様が安全・安心に暮らせるか常に検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔取った杵柄が何なのかをアセスメントにより把握する。なるべく楽しかったことをもう一度やってもらう事で日々の楽しみを見出す。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員が協力医の往診を受けている。診察外の受診に関しては、家族様に対応して頂いている。入院などは、以前かかっていた病院を救急隊に知らせたりしている。	入居時の話し合いで、全員が協力医で、月2回の往診がある。外部評価当日は歯科の先生の往診があった。他科の受診は家族対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良の早期発見・報告の大切さ、記録を残す事の大切さを研修などで全スタッフに伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方はおらずであったが、つい先日入院されましたので、情報交換などのお願いをしていきたいと思っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	どこまでを本人が望んでいるかをタイミングがあえば何気ない会話で確認したりしている。本人の希望を聞く事で、その願いを叶えたいと考えている。また家族様の意見も同じく聞いていく。	事業所としては看取り支援を希望しているが、法人本部からの承認が未だ下りていない。承認が下り次第、実施できるよう準備の意向である。	見取りの承認が下り次第、支援をスタートする予定であり、看取りマニュアルもあるので、職員教育ははじめ体制作りを、前もって準備されることをお願いしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調不良時には協力医に相談をして指示を仰いでいる。体調の変化を感じた時は、管理者に即連絡を入れる事を全スタッフに周知しており、そこから管理者は指示を飛ばす事としている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員研修年間計画に消防訓練や緊急時の対応を組み入れて知識を増やしている(今年度は9月予定)夜勤者は一人であるので、慌てて外に出ない出さない事を指導している。備蓄品は本社から送られてくる。	消防署立会いの訓練を9月に予定しているが、どのような想定で行うか検討中である。	火災だけでなく、大規模地震時の津波も考慮が必要である。運営推進会議に提案し、地域の皆さんを巻き込んだ訓練にされることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	かしこまった敬語ではなく、やさしく丁寧に話し、片手間で適当に返事をしたりしない事を研修等で周知している。興味本位で色々な事を聞く事にも注意をするように伝えている。	当初のアセスメント以上に個人情報聞き出したりしないように、また言葉遣いもその人に合った言葉とするよう注意している。年に1回であるが、全社員対象にプライバシー保護についての試験がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時折、メニュー表をみて、好きなお弁当を注文して食べたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事も皆同じ時間に食べる必要性はないと考えている。在宅時に近いペースで暮らして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りは基本ご自身で。洗顔クリームで洗顔する事に拘って見える方もおられます。毎日、洗顔→化粧水→乳液の順番が分からなくなりますが、声掛けにより説明しいつまでも継続出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの多い方には、なるべく他のものを提供させて頂くようにしている。メニュー作成時にお屋に簡単に作れるものや、ホットプレートを使用したりするメニューにしていたりする。	食材は業者から仕入れ、調理は職員がしている。職員の一人が栄養士であり、利用者の好き嫌いや希望をしっかり聞いてメニューを作っている。また、誕生日にケーキを作ったり、おやつを手づくりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士免許保有の職員にてメニューを作成しており、嚥下状態などが変わった場合は随時対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食事後・就寝時には口腔ケアをしてもらうように誘導している。就寝時には洗浄液に浸けている。訪問歯科にもきてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本、オムツの使用は考えていない。リハビリパンツも最低限の使用としている。間に合わなかったり、汚染があった場合は洗えば良いと考えている。	布パンツのみの方が3人おり、漏らしても洗えばいいという考えで布パンツを維持している。またリハビリパンツの方も同じ考えで、オムツは使用せず、トイレでの排泄自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにサツマイモやはちみつなど、便秘予防に効果のある食材を取り入れている。水分を多めに取ってもらえるように、日々の飲み物も色々変えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日希望される方には毎日。長くて2日に1回は入って頂くようスタッフを調整している。時間帯も本人の希望を聞いている。一人一人お湯の入れ替えを行っている。	ほとんどの方が毎日入浴されており、風呂嫌いの方もいない。一人ひとりお湯の交換をしているので、入浴順でもめることもない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は自由に居室にて休む事が出来ます。基本「眠剤」の使用は無し。眠れ無い時には一日トータルの睡眠時間を考えて休んで頂きます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は全スタッフが見れるようになっている。又一覧した物も準備してある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ニチイ学館のグループホームに位置付けられている「ガーデニングセラピー」を取り入れ、野菜作りなどを行っている。外出レクも検討中		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に合わせて、歩いて皆でお花見にいたり、近所を散策したりしている。喫茶店など、昔からのなじみの店に行きたい場合は家族様が対応してくださっています。	天気の良い日は事業所近隣の散歩を、また少し遠いが小学校まで花見に出掛けている。現在日帰り旅行として「なばなの里」を計画している。外出レクとしてカラオケもあり、家族となじみの喫茶店へ出掛ける方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つての買い物等は現状は色々な意味で難しい為、お弁当を頼むときなどは、金額を見ながら注文出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みは可能であるが、会社の電話を使用して電話して頂き、家族様と話して頂く事となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は引き戸であり、電気のスイッチも低い位置についている。床暖房やエアコン・空気清浄機なども設置されている。	2階建ての建物の1階で、まだ新しい木の匂いがする。南面に大きな窓があり、テラスがついており、非常に明るい。壁面には利用者手づくりの大きなアジサイの花や七夕が飾られている。ゆったりとした居間でテレビコーナーを設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビがテラス側に置いてあり、椅子も準備してあるため、そこでおしゃべりをしたり、お天気の良い日には、テラスにておしゃべりしたりしている。居室は全て個室となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やベットは在宅時から使用して頂いたものをご持参頂いています。備え付けのクローゼット・洋服を掛けるフックなどは各居室に作りつけてあります。	テレビや衣装箱の持ち込みもあるが、大きなクローゼットが備え付けであり、壁面に洋服かけのフックが取り付けがあるので、どの部屋も整理整頓されすっきり感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアは色を変えてあり分かりやすくなっている。居室を間違えないように表札を貼っている。		